

令和 7 年度 第 1 回大津市がん対策推進委員会議事録

- 1 日時 令和 7 年 11 月 13 日（木）10 時～11 時
- 2 場所 明日都浜大津 2 階 健康づくり会議室
（Web 会議システム Webex 併用 ハイブリット方式）
- 3 出席者 5 名（8 名中）
会議室出席者：村田委員長、大西委員、菊井委員
WEB 出席者：大久保委員、津田委員
欠席：尾辻委員、辻委員、野原委員

4 議題

- （1）第 2 期大津市がん対策推進基本計画に基づく指標項目の現状について
- （2）令和 7 年度のがん対策に係る取組状況について
- （3）その他

5 議事概要

【議題 1】第 2 期大津市がん対策推進基本計画に基づく指標項目の現状について

事務局：資料 1 に基づき説明

（がん予防に関する科学的知識の普及について）

委 員：9 ページの、SNS を活用したがん検診情報の発信は、どういう形で、どういう方に発信しておられるのか。

事務局：市で LINE の公式アカウントがあり、様々な発信情報をカテゴリー分類している。健康に関する情報を取得したい方は、健康・福祉のカテゴリーを受信したい情報として登録し、お友達登録をしていただいている。登録者には、検診の案内を、実施時期に合わせて定期的に配信している。また、最近では連絡ツールとして主流ではないが、メール配信サービスによる配信も継続して実施している。

委 員：他の市町の状況を調べてみると、がん検診の案内も、紙媒体より SNS を用いた方が、受診率が大幅にアップしたというデータが出ていた。今のところがん検診の受診案内等は紙媒体なのか。SNS を使って周知されているか。

事務局：電子的に個人に通知することが現状難しいので、個別勧奨する場合はどうしても紙媒体による勧奨となる。広く周知する目的としては、先ほども申し上げたとおり、LINE 等の既存の SNS を使った情報発信をしている。

委 員：市が発信するのは 60 回を目標にされているということだが、登録人数や会社等

の数はどのくらいか。発信ではなく、受け手側がどれだけ登録しているか把握されているか。

事務局：LINEについては把握が難しく、実際どういった方が、どれぐらいの人数ということは把握できていない。

委員：把握できないのであれば、登録数も増やしていくことで、より多くの方に発信することが重要である。

事務局：市の公式LINEアカウントの友達数について、現在市で公表しているデータによると、2025年6月時点で約85,700人の方に友達登録をさせていただいている。健康・福祉のカテゴリーに登録されている数は手元にはないが、全体の登録状況は申し上げたとおりである。

委員：登録された方がどのカテゴリーを希望するか選択しており、希望した情報が届くということなので、全員が健康のカテゴリーを希望してくださると有り難い。

（がん検診の受診促進について）

委員：12ページで、乳がん検診が県内の医療機関で受診可能になったことは良かったと思うが、これは市民が申し込んだ時に、市内の医療機関で受診できなくなっていたので、県内で受診可能な機関を増やしたという流れか。

事務局：委託契約の関係になるが、今までは津市内と草津市の一部の医療機関でしか受診できない運用だったが、働く世代の人によっては、もう少し遠方の県内の他市町での受診を希望される方もある程度おられるという想定のもと、県内であれば希望に応じて受診できるよう、令和6年度から体制を整えた。

委員：検診を受けたいと思って申し込んでも、近くでできないのだったら、まあいいやと思ってしまいがちだが、津市じゃなくて他の場所で受けたいという希望に対応するために、県内の医療機関で受けられるようにしたことを理解した。受診したくても混んでいて希望する医療機関に予約できないという話を時々聞くが、そのあたりの状況は把握されているか。

事務局：病院によっては、既に今年度の予約を締め切ったという状況も聞いている。病院によって受け入れのキャパシティはあるので、他に受けられるところがないかと市民から問い合わせがあったときには、もう少し余裕があるところの案内を市からもさせていただいている。

委員長：がん検診の受診率の令和6年度の実績が、計画策定時と比べて全体的に伸びており、とてもいいことだと思う。特に肺がん和大腸がんについて、すごく伸びが良いが、令和6年度に何か特別なことをされたのか。

事務局：肺がん和大腸がんの検診については、令和6年度から後期高齢者を対象とした健康診査の対象者を拡充したことが影響している。その健診を受ける方が、医療機関で同時にがん検診を受けていただいたことで、特に肺がん和大腸がんの2つの検診について、後期高齢者の年齢層の方を中心にかなり受診者数が増えた。

委員長：その傾向は、今年度以降も続いていくのか。

事務局：医療機関においても、健康診査と同時に受けられることを積極的に案内していただいております。数字が伸びていることから、今後も同様の傾向になると考えています。

(学校教育におけるがん教育の充実について)

委員長：14 ページの学校教育におけるがん教育の充実というところで、スピーカーバンクから講師が派遣され、学校を訪問した令和6年度の実績は9校であった。滋賀県がん患者団体連絡協議会からの講師派遣ということで、大変ありがとうございます。患者団体として結構負担になっていないか。

委員：滋賀県がん患者団体連絡協議会では、講師の育成と派遣事業を行っている。事務局では、「何日に何クラスあるので来ていただけますか」というような依頼をいただくが、スピーカーはそれぞれが別に仕事をしており、また、個人的な予定もある中で、日程調整が大変になっている。例えば、3つのクラスでそれぞれやって欲しいという依頼に対し、スピーカーを3人派遣できたら良いが、2人で対応していることも多い。育成についても、子供たちに伝えるに当たり、不正確な話は良くないということで、研修を年に3回行い、1人ずつ15分の持ち時間で実際に話していただき、スピーカー全員で良かったところや悪かったところの意見を出し合い、あの言葉は小学生には難しい、手術や抗がん剤の薬の名前とかは要らないというような事前研修をすることで、スピーカーをある程度自信を持って派遣することができている。成人になってからの啓発はかなり難しい。検診に行く人は行くが、行かない人は本当に行かないので、やはり子供の頃から、子供にも、家庭の中でも、がん検診を受けることの大切さを伝えることが非常に重要であると実感している。約1時間の授業であるが、将来の予防行動に繋がる啓発事業として頑張っている。

委員長：大変忙しい中で事前準備もしっかりしていただいている。もっと準備の時間が欲しいなど、要望はあるか。

委員：体制は整えられているので、派遣依頼をもっといただきたい。大津市の学校教育課の担当者が本当に頑張って周知いただいているが、校長会といった場においてもアナウンスしていただけたら、おのずと依頼の数が増えていくものと思っている。

委員長：評価指標の3項目について、どのようなアンケートの内容で、実際どのような反響があるのか。

事務局：大津市では、当初2校実施だったところが昨年度は9校まで、滋賀県がん患者団体連絡協議会との関係で伸びてきている。昨年度の委員会でいただいた意見を参考にしながら、3つの質問を作成し、今年度からアンケート調査を実施している。今年度はこれまでに2校実施済みで、これから4、5校、さらに実施していく。現時点で、評価指標の1つ目については、約98%の子供たちが肯定的な回答で、非常に重要なことであると感じてくれている。文部科学省の動画を取り入れていただき、先ほど委員からもお話があったように、スピーカーバンクの先生が話してい

ただ内容が、年々良くなっていると感じている。子供たちが、自分の健康についてしっかり考えないといけないと実感していることが、98%という割合に出ているものと考えている。2 つ目の評価指標に関しては 85%、3 つ目の評価指標に関しても 90%以上の肯定的な回答をいただいております、授業としては非常に充実してきているものと感じている。ただし、学校によっては、がんだけではなく、薬物乱用、喫煙、飲酒といったテーマを隔年でやっている学校もある。

(市民に対する研修機会等の充実について)

委員長:15 ページの市民に対する研修機会等の充実について、様々な取組をされており、令和 6 年度の実績等の記載もあるが、具体的にどういう数になるのか。おおつ健康フェスティバルとか、秋・福・祭に参加した数ということか。

事務局:こちらの指標は、がんについて考える日の市民フォーラムに参加いただいた方の数を計上している。健康教室・教育の実施回数については、すこやか相談所で実施している健康教育での参加者の数になる。

委員長:歯科の分野でも様々な取組がなされており、大津では「^し歯あわせファミリーフェスタ」を開催されているが、そのイベントは実績に含まれないのか。

事務局:内容が歯の話になっており、今のところがんの要素は含んでいない。今後、がん予防についても啓発できれば良いと思っている。

委員:先日開催したファミリーフェスタは、疾患として歯周病や虫歯を取り扱うことが大半なので、どうしてもそちらの啓蒙が中心となる。口腔がんは、分野で見ると希少がんになるので、発生率というのは低いものであり、業界としてはどうしても後回しになる印象を受けている。ただ、ご指摘はとても正しいと思っている。口腔がんは、食事する機能や見た目等が、進行するとかなり損なわれるので、早期の発見がとても重要である。そういう点も踏まえ、今後がん予防についての啓蒙も考えたい。

【議題 2】令和 7 年度のがん対策に係る取組状況について

事務局:資料 2 に基づき説明

(学校教育におけるがん教育の充実・がん検診の受診促進について)

委員:がん教育の中でも、がん検診の重要性は生徒も分かっていると思うので、例えばそのがん検診を促進するために、受診促進のポスターを学校でコンテストのような形で公募するのも 1 つの手ではないか。学校だけでなく、市全体で公募するなど、予算化してやっていただくのもいいと思う。

また、滋賀県薬剤師会では、現在、在宅医療に関する調査をしている。会員・非会員共に調査を行っており、結果を取りまとめているところである。現時点で分かっている範囲で報告すると、大津市内の 132 薬局から回答があり、そのうち、今後

依頼があったら在宅に対応するという薬局が 103 薬局あった。78%の薬局から、今後在宅に対応していくという回答を得ている。また、麻薬の処方せんについては、現在 121 の薬局が、自施設で対応又は自分のところに在庫がなくても在庫を確保している薬局に紹介すると回答している。こちらも結構高い割合で対応いただいている状況にある。一方で、麻薬と言っても内服薬と注射薬があるが、持続皮下注射に関しては、まだ 33 薬局、25%くらいの薬局しか対応できていない。そのあたりはもう少しフォローしていきたい。現状としてそういった結果が出ており、今取りまとめているので、結果がまとまり次第、関係各所に調査結果を共有したい。

事務局：ポスターのデザイン作成など、市民が参加できるような企画を今後検討していきたい。

委員：先日の働く世代のがん対策推進会議で、市役所の庁舎が新しくなる時に、ライトアップできる設備をつけて啓発できるようにしたらいいのではないかと提案させていただいた。長浜市役所では、10 月の乳がんの月間にピンクにライトアップしていた。設計に是非加えていただきたい。

(アピアランスケアの情報提供と利用支援について)

委員長：8 ページのアピアランスケア支援事業について、乳房補整具まで拡張され、非常に喜んでおられる方も多いと思っている。こういう情報は、対象の医療機関や市民には、どのような形でお知らせしているか。

事務局：これまでの申請状況を参考に、治療を実施している医療機関や、相談支援センター等の相談業務を行っている機関に、案内チラシの設置をお願いしている。また、補整具の販売店にも、事業の周知の協力を依頼している。乳房補整具の補助については、当初の想定より件数がやや少なめであるものの、申請は実際に来ている。

【議題 3】その他

特になし

以上